

流通コストの低減

飼料用米の利用拡大のための機械・施設整備等に対する支援

- 産地で必要とされている飼料用米保管施設（カントリーエレベーター、飼料保管タンク、飼料用米保管庫等）の整備を支援。なお、施設整備に伴う産地の負担を軽減する観点から地域の既存施設の有効活用を図ることが基本。
- 畜産農家が飼料用米を利用するために必要な機械の導入や施設の整備を支援。

● 強い農業づくり総合支援交付金（令和7年度予算概算決定額：120億円の内数）

稲作農家が受益となる施設

→ 飼料用米の生産拡大に対応するための施設の新設・増築や機能向上を支援。

（※単独施設での整備も可能だが、周辺に利用率が低い施設があれば、複数施設の再編を行う。）

例1：飼料用米のカントリーエレベーターを新設



例2：カントリーエレベーターを増築し、飼料用米にも対応



畜産農家が受益となる施設

→ 自給飼料（飼料用米を含む）生産拡大に対応するために必要な保管・加工施設等の整備を支援。

（※長期の利用供給に関する協定を締結すること等が条件。）

例：TMRセンターに飼料用米保管タンクを増設



● 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（令和6年度補正（所要額）：319億円の内数） （畜産クラスター事業）

→ 畜産クラスター計画に位置付けられた地域の中心的な経営体（畜産農家、飼料生産組織等）が飼料用米の保管・加工・給餌するために必要な機械の導入、施設整備等を支援。

例：米粉砕機、飼料保管タンク、混合機等の導入



飼料用米の乾燥・調製・保管場所の確保に係る事例

- 多収品種に取り組む産地の中には、
 - ① 空きのできた既存の主食用米倉庫の一部に保管している事例
 - ② 既存のカントリーエレベーター（CE）・ライスセンター（RC）の再編利用により新たな投資を最小限に抑えながら保管場所を確保している事例
 - ③ 地域内で一定量の飼料用米の生産拡大が見込めるとして新たに飼料用米専用のCEを建設している事例がある。
- 畜産側では、飼料の自家配合を行う比較的規模の大きな農家が飼料用米保管タンクや倉庫を設置している事例がある。

産地側

① 既存倉庫の利用 （栃木県内のJAの事例）

- ・空きが生じた主食用米の倉庫の一部を利用。
- ・フレコンに品種名を明記し、倉庫内での分別保管を徹底。



（イメージ）

②-1 既存CE・RCの再編利用

- ・管内14カ所のCE及びRCのうち、老朽化した1カ所のCEを改修し、飼料用米の調製保管施設として利用。
- ・管内のRCや個人で乾燥した粳を施設のサイロビンに集約保管し、需要先の利用形態に応じて粳摺りをして出荷。地域の飼料用米流通の拠点施設となっている。

（「平成21年度強い農業づくり交付金」を活用）

（秋田県内のJAの事例）



②-2 既存CE・RCの再編利用 （熊本県内のJAの事例）

- ・地域のCE・RCの再編に伴い、既存のCEにサイロ等を増設し、主食用米と飼料用米とを区分して管理。市内で生産する飼料用米は当施設で一元的に処理。
- ・飼料用米の区分集出荷体制を確立し、主食用米への混入を防止。

（「平成21年度強い農業づくり交付金」を活用）



③ 飼料用米専用CEの新設 （宮城県内のJAの事例）

- ・年間を通じて均質な飼料用米を供給できる体制を構築するため、平成24年に飼料用米専用のCEを新設。
- ・これまで管内の11ヶ所のRCで行われていた飼料用米の乾燥調製を本CEに集約化するとともに、老朽化した4カ所のRCを閉鎖するなど施設の再編合理化も実施。

（「平成23年度戦略作物生産拡大関連施設緊急整備事業」を活用）



畜産側

畜産農家における飼料用米保管タンクの設置 （山口県内の養鶏農家の事例）

- ・飼料用米専用の保管タンクを整備し、飼料用米の集荷・保管等を一元管理することによりコストを削減。
- ・地域の耕種農家と連携して、飼料用米の生産・利用ネットワークを構築。



（「平成28年度畜産クラスター事業」を活用）

畜産農家における飼料用米保管施設の設置 （鹿児島県内の養豚農家の事例）

- ・飼料用米保管施設を2棟整備。
- ・飼養する肥育豚約10,300頭に、年間約189tの国産飼料用米を給与できる体制を構築。



（「平成29年度強い農業づくり交付金」を活用）

配合飼料メーカーの立地状況と飼料用米の集荷・流通体制

- 飼料用米の産地は全国に存在するが、配合飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地が集中。
- 飼料用米については、生産者団体による飼料用米の集荷・流通体制が確立されていることから、稲作農家自らが需要先の確保や配合飼料工場への供給に携わらずとも、飼料用米の生産に取り組むことが可能。

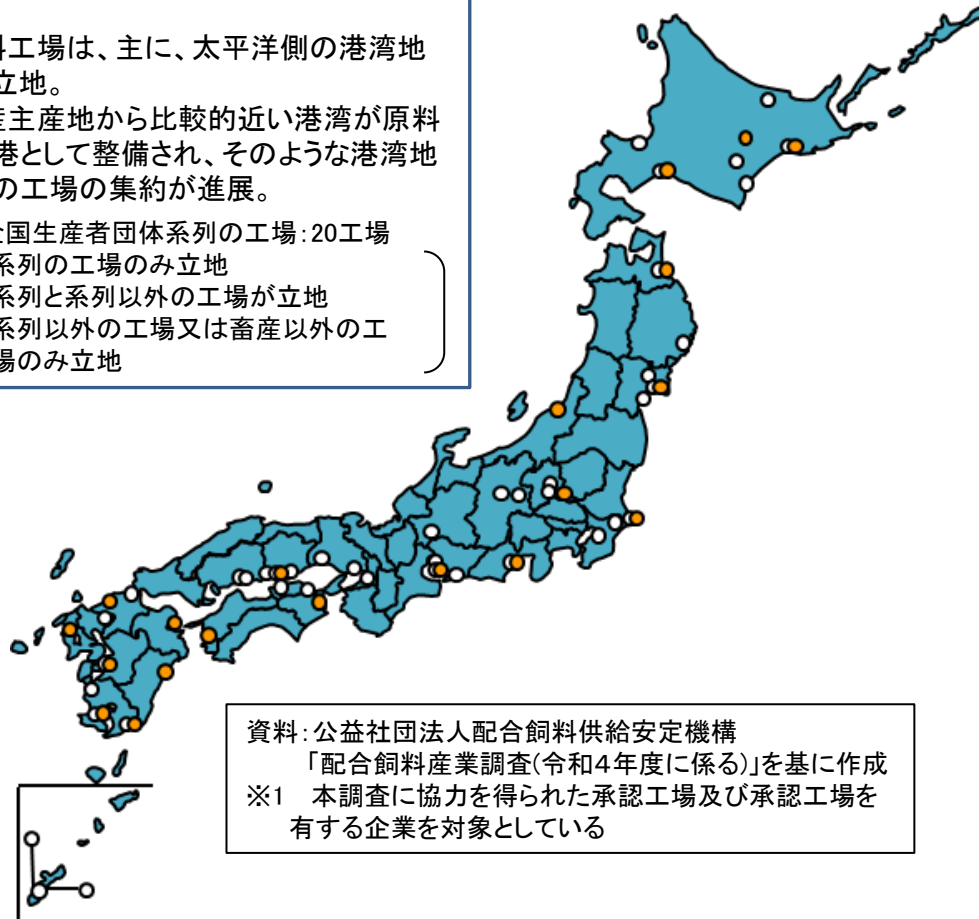
配合飼料工場の立地状況※1

企業数:57社
工場数:102工場

- ・ 飼料工場は、主に、太平洋側の港湾地域に立地。
- ・ 畜産主産地から比較的近い港湾が原料受入港として整備され、そのような港湾地域への工場の集約が進展。

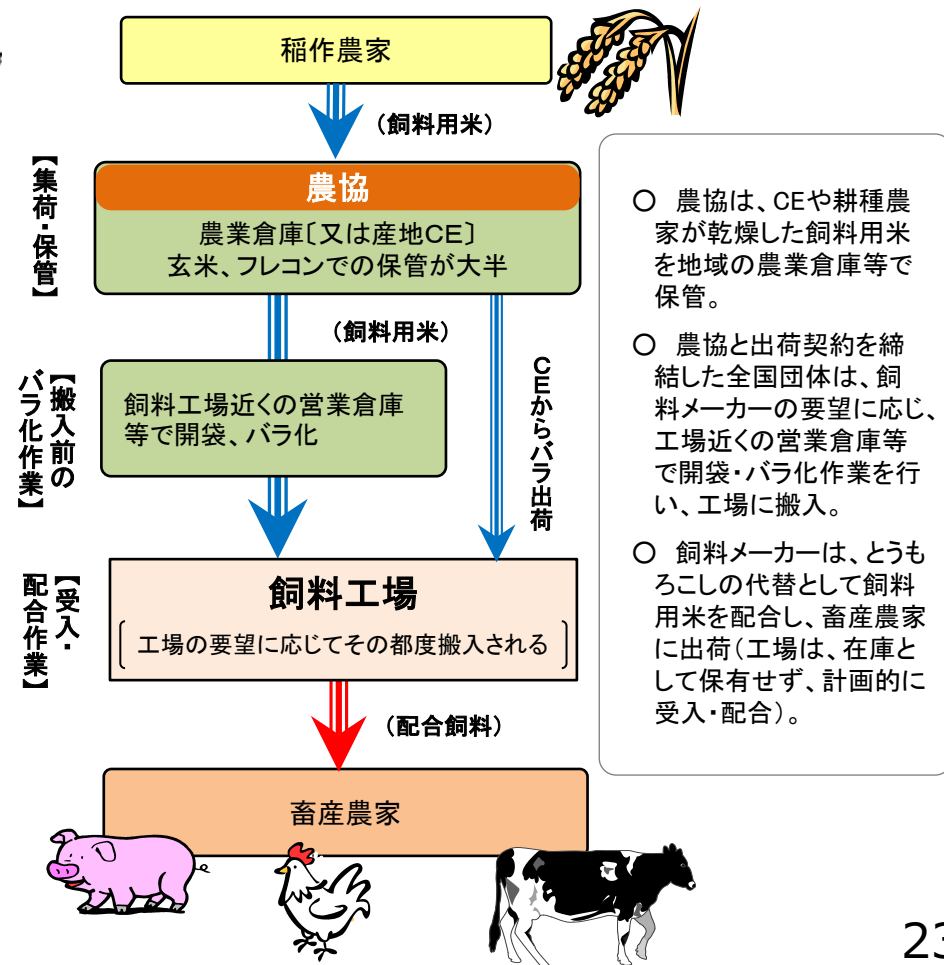
うち全国生産者団体系列の工場:20工場

- 系列の工場のみ立地
- 系列と系列以外の工場が立地
- 系列以外の工場又は畜産以外の工場のみ立地



資料:公益社団法人配合飼料供給安定機構
「配合飼料産業調査(令和4年度に係る)」を基に作成
※1 本調査に協力を得られた承認工場及び承認工場を有する企業を対象としている

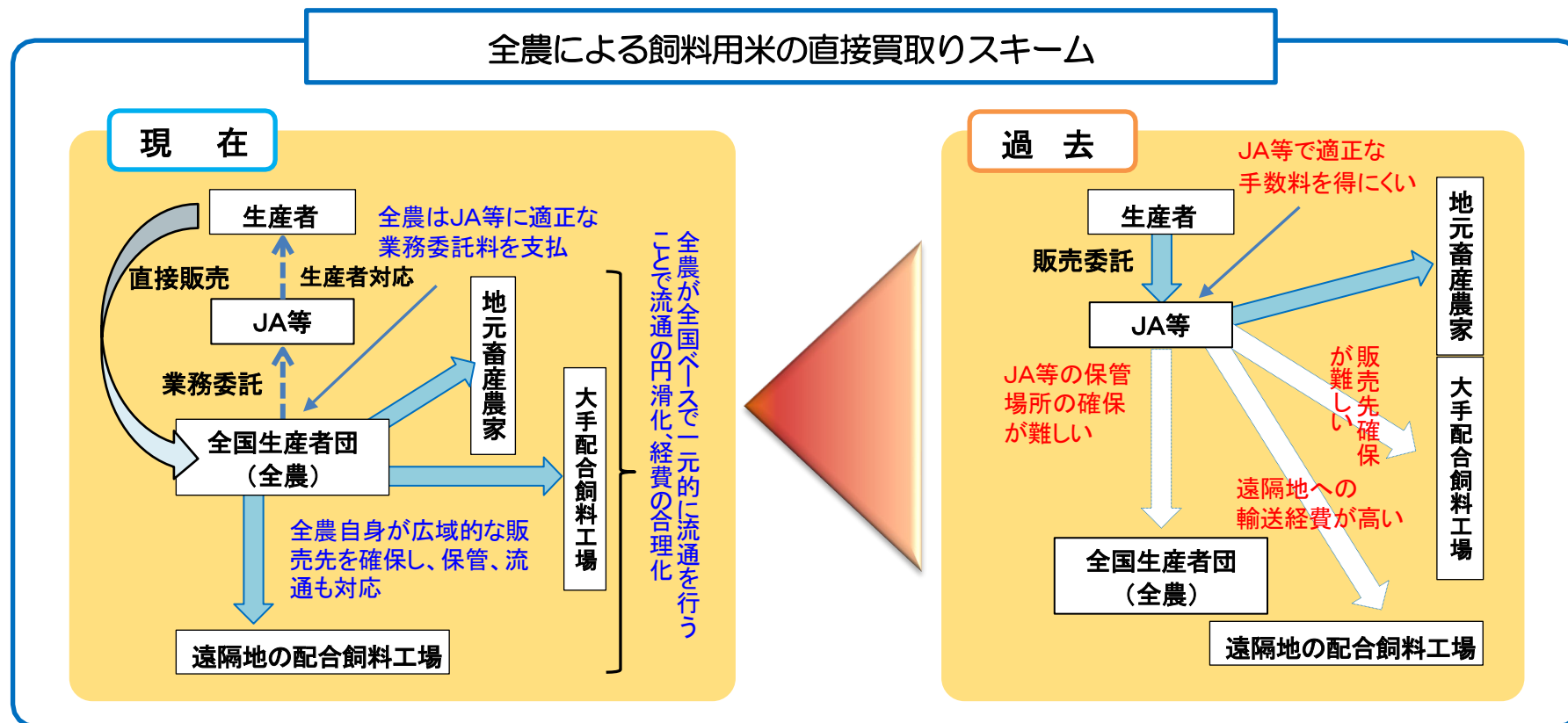
全国生産者団体による飼料用米の集荷・流通体制



全国生産者団体による集荷・流通について

- 全国生産者団体（全農）は、飼料用米を生産者から直接買い取り、自ら保管・流通・販売する仕組みを創設し、運用している。
- 全農に出荷された米の輸送経費は、基本的には輸送距離に応じて高くなるが、契約した運送業者等における帰り荷の有無等も影響するため、輸送距離のみによって決まるものではない。
- 流通経費は、一般的に金利・倉敷料や販売手数料等の他の経費と合わせて計算され、生産者が受け取る販売代金から差し引くことで精算されている。

全農による飼料用米の直接買取りスキーム



※ 農林水産省では、全国生産者団体（全農）が創設した仕組みの運用を可能とするため、「米穀の出荷販売業者が遵守すべき事項を定める省令」（平成21年11月5日農林水産省令第63号）を一部改正（平成26年11月公布、平成27年2月施行）

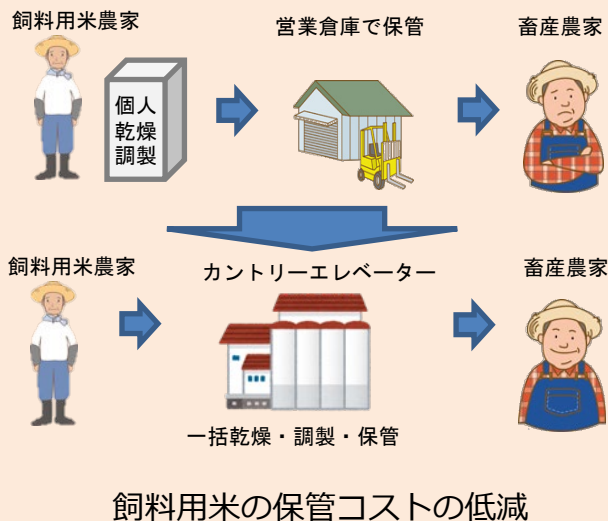
流通コストの低減に向けた取組

- 需要に応じた飼料用米の生産拡大に向けては、生産コストの低減に加え、流通コストの削減に取り組むことが重要。
 - このため、先進的な地域では、
 - ① 個人乾燥・調整、民間倉庫保管から、CE等の共同管理体系を導入したことによる保管コストの低減（例①）
 - ② 帰り便活用のため、バルク車が横付けできるストックポイントの設置による保管・輸送コストの低減（例②）
 - ③ 遠隔地の配合飼料工場には運ばず、現地配合施設の設置による輸送コストの低減（例③）
- といった取組みが行われている。

CEに飼料用米専用施設を増設 （例①）

- 管内のカントリーエレベーター(CE)に飼料用米専用の乾燥・保管施設を増設
- 個人乾燥・営業倉庫保管体系と比べ、保管に係るコストを低減

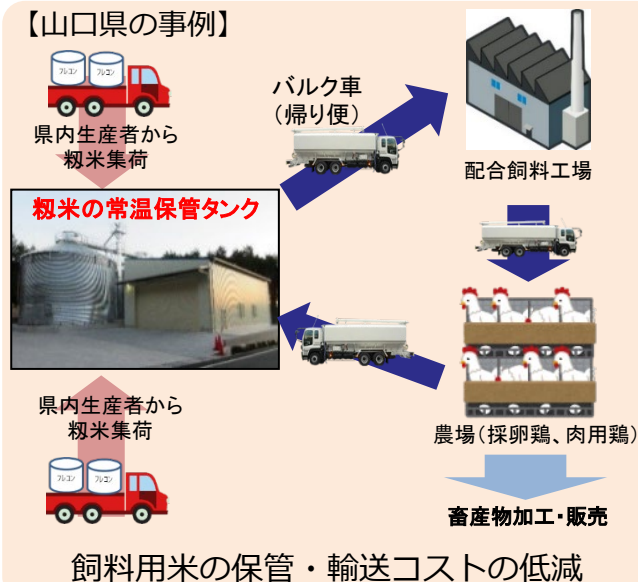
【熊本県の事例】



ストックポイント設置と 帰り便の活用（例②）

- 農場内に粳米の常温保管施設を整備し、保管に係るコストを低減
- 飼料運搬車の帰り便を活用し、配合飼料工場に運搬することにより、輸送に係るコストを低減

【山口県の事例】



現地配合による輸送費の 削減（例③）

- 大手飼料メーカーが基礎飼料を供給
- 基礎飼料を入れた配合飼料運搬車に粳米を添加・混合し、現地配合により輸送に係るコストを低減

【広島県の事例】



飼料用米を活用した畜産物のブランド化

飼料用米を活用した畜産物の高付加価値化に向けた取組

- 飼料用米の利活用に際しては、単なる輸入とうもろこしの代替飼料として利用するのみならず、その特徴を活かして畜産物の高付加価値化を図ろうとする取組が見られる。
- 国産飼料であることや水田の利活用に有効であること等をアピールしつつ、飼料用米の取組に理解を示す消費者層等から支持を集めつつある。

日本の米育ち 平田牧場金華豚・三元豚

- 事業者名: 株式会社平田牧場
(山形県酒田市みずほ2丁目)
- 畜産物販売: ネット通販、直営店等
- ブランドの概要

飼料用米を活用した畜産物ブランド化の先駆者として日本最大規模を誇る。大学、研究機関等と連携し、飼料設計や給与技術の改善、肉質向上に取組み、全ての豚が飼料用米を活用(肥育前期15%、後期30%)また、生産・流通・販売まで一貫して行うことで、収益性の高い高付加価値化を図っている。



日本のこめ豚、米っこ桃豚

- 事業者名: ポークランドグループ
(秋田県鹿角郡小坂町)
- 畜産物販売: ネット通販、スーパー等
- ブランドの概要

「農業で幸せになろう」を合言葉に、畜産を中心とした循環型農業を推進。地元産の飼料用米を使用した豚肉を「日本のこめ豚」として全国に販売、また県内のスーパーでは「米っこ桃豚」として販売している。飼養する全ての豚に離乳後から10%、肥育後期には30%の飼料用米を与えている。



オクノの玉子

- 事業者名: 株式会社オクノ(兵庫県加古川市八幡町)
- 畜産物販売: ネット通販、直売所、ホテル等
- ブランドの概要

飼料用米のほか、釧路産サンマ魚粉や赤穂の塩など、厳選した国産原料を自家配合して給与。実需者とは直接契約で年間固定価格で安定取引。ホテル等で定期開催される産直マルシェをプロデュースし、オクノの玉子の素材へのこだわりをPRしている。飼料用米の配合割合は30%。



エムケイさんちのお米豚

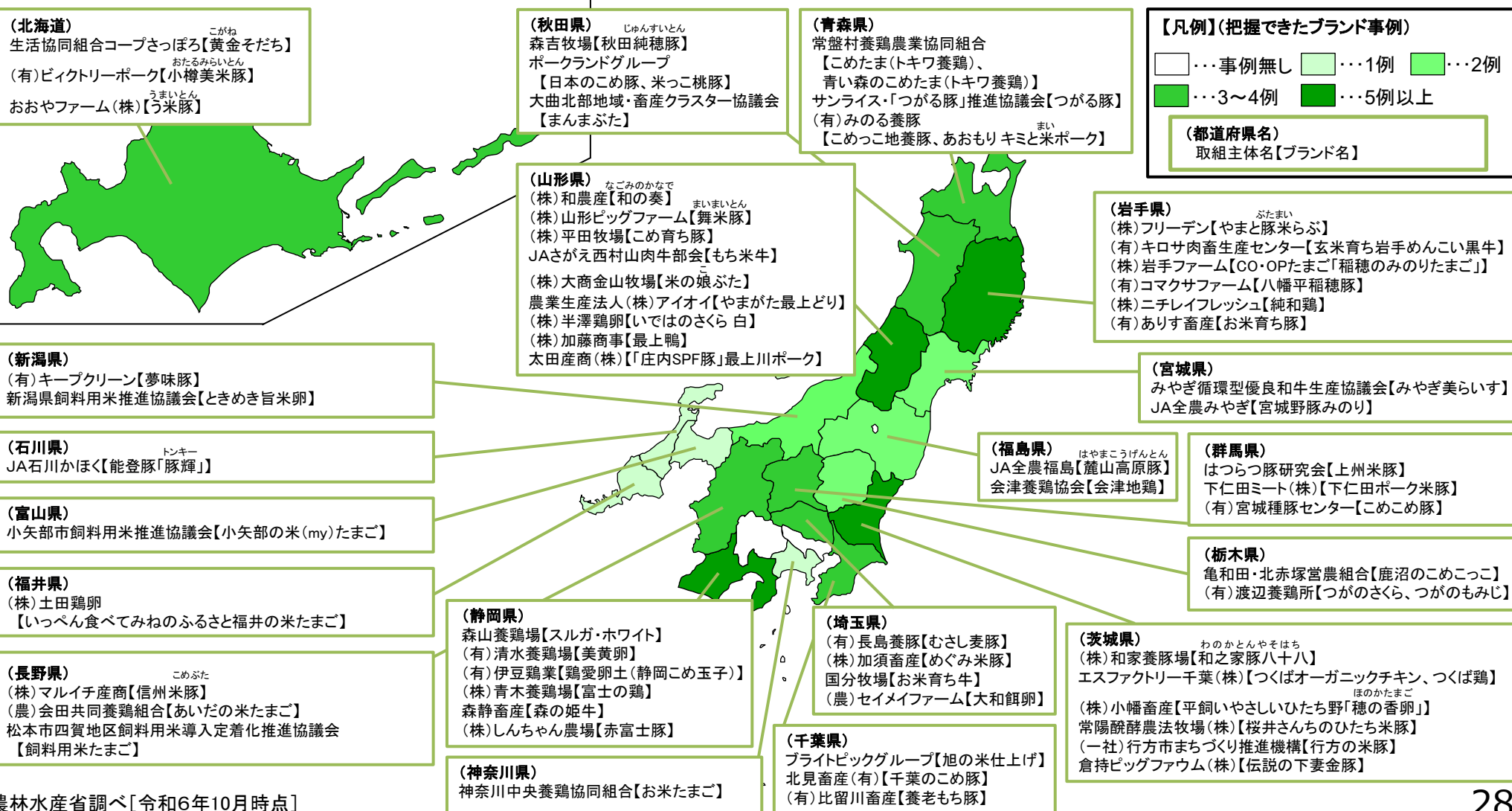
- 事業者名: 有限会社エムケイ商事
(宮崎県都城市神之山町)
- 畜産物販売: スーパー、ネット通販等
- ブランドの概要

宮崎県都城市を中心とした南九州で収穫された国産飼料用米を主に使用し、集荷・検査・保管、配合飼料メーカーへの輸送・製造、直営農場での豚への給餌まで、一貫した管理体制を実施。「楽天市場ふるさと納税人気お礼の品」2019年年間ランキングで第4位を獲得。飼料用米の給餌割合は20%。



飼料用米を活用した畜産物のブランド化事例①

- 飼料用米の利活用之际しては、輸入とうもろこしの代替としての位置づけを超えて、その特徴を活かし畜産物の高付加価値化を図ろうとする取組が見られる。(41道府県115事例)
- 国産飼料であることや水田の利活用に有効であること等に理解を示す消費者層等から支持を集めている。



飼料用米を活用した畜産物のブランド化事例②

【凡例】(把握できたブランド事例)

…事例無し
 …1例
 …2例
 …3～4例
 …5例以上

(都道府県名)
 取組主体名【ブランド名】

(山口県)
 (株)出雲ファーム
 【やまぐちの米育ち、長州米たまご、
 徳地のこめたまご、こめたまご、
 山口米たまご、加工品】
 深川養鶏農業協同組合
 【長州どり、長州黒かしわ】
 (有)鹿野ファーム
 【鹿野高原豚、お米豚】

(島根県)
 (有)藤蔭・JALまね出雲地区本部【まい^{まいぎゅう}米牛】
 (有)旭養鶏舎【島根のこめたまご】
 (有)福田ファーム【島根のこめたまご】
 (有)山本産業【石見のこめたまご】
 (有)森脇鶏農場【島根のこめたまご】
 (株)たなべたたら^{まい}の里 たなべ森の鶏舎【彩り天祐卵】

(鳥取県)
 (株)美敷牧場【米そだち牛】
 (株)西日本ジェイエイ畜産・鳥取県生活協同組合
 【大山こめ豚「みみとん」】
 小川養鶏場【さくらのこめたまご】

(岡山県)
 生活協同組合おかやまコープ
 【コープおかやま牛、コープおかやま豚、
 コープ産直こめたまご、コープおかやま若鶏】
 新田養豚【米ブレっとな】

(兵庫県)
 (株)オクノ【オクノの玉子】
 飼料用米を活用した鶏卵・鶏肉のブランド化推進協議会
 【ひょうごの穂々笑実^{ほほえみ}】

(京都府)
 京都生協【さくらこめたまご】

(滋賀県)
 生活協同組合コープしが【産直こめ育ちさくらたまご】

(岐阜県)
 CO・OPぎふ【さくら米たまご】
 岐阜アグリフーズ(株)【奥美濃古地鶏】
 ゴトウたまごセンター ゴトウヒヨコ姫研究所
 【純国産鶏のおこめたまご】
 (有)山内種鶏場【有精卵のやま卵】
 (有)棚橋ファーム【醍醐卵】
 国枝農園【いけだの森たまご】
 山田農場たまご(株)【山田農場たまご】
 (有)大前ファーム【大前の米たまご】

(愛知県)
 (有)デリーファーム【あいちの米たまご】
 JAあいち経済連【みかわポーク】

(三重県)
 (株)大里畜産【伊勢美稲豚】
 (株)地主共和商會【平飼い米たまご、お米美人】
 (有)一志ビックファーム【一志SPポーク】

(香川県)
 (有)高島産業【もみじとお米のたまご、あらた赤玉】

(徳島県)
 徳島県農業再生協議会【地米卵】
 石井養鶏農業協同組合【大河のおすわけ神山鶏】

(愛媛県)
 (有)イヨエッグ【米っ娘たまご^こ】

(高知県)
 四万十ポークブランド推進協議会【四万十ポーク「米豚」^{こめぶた}】

(福岡県)
 城井ふる里村(有)【築上の米卵】
 JA全農ふくれん【博多すい〜とん】

(佐賀県)
 (株)ヨコオ【みつせ鶏】

(長崎県)
 (株)土井農場【諫美豚^{かんびとん}】
 長崎県央農業協同組合【ながさき健王豚】
 (株)柿田ファーム【雲仙あかね豚】

(大分県)
 (有)鈴木養鶏場【豊の米卵^{とよのこめたまご}】
 (有)福田農園【錦雲豚^{きんうんとん}】
 豊後・米仕上牛販売拡大協議会【豊後・米仕上牛】
 大分米ポークブランド普及促進協議会【米の恵み】

(熊本県)
 (有)那須ファーム【八十八卵^{やそはちたまご}】

(鹿児島県)
 マルイグループ【マルイ元気米たまご、米そだち元気鶏】
 (株)カミチク【玄米黒牛】

(宮崎県)
 JA宮崎経済連【米の子^{こめぶた}】
 (有)エムケイ商事【エムケイさんちのお米豚】
 えびのエコフィード利用・増産推進協議会【いもこ豚】